

外国語教育メディア学会

LET

九州・沖縄支部だより

第43号

2005(平成17)年5月1日

LET九州・沖縄支部事務局発行

〒854-0081 長崎県諫早市栄田町1057  
長崎ウエスレヤン大学語学情報センター内

TEL & FAX (0957) 26-1248

E-mail: secretariat@jlet-ko.org

編集: 中野秀子・川上典子・山口千晶

## Okinawa CALLing

Conference Chair : Douglas Dreistadt (Okinawa International University)

The 36<sup>th</sup> Annual Kyushu-Okinawa Chapter Conference of the Japan Association for Language Education and Technology is rapidly approaching. This year's district conference is being held in Okinawa for the first time. Our host, Okinawa International University, would like to wish you all a warm welcome!

The theme of this year's conference is *e-learning*. Perhaps the most important distinguishing feature of e-learning is its utilization of TCP-IP networks, which makes possible a remarkable degree of interactivity, as well as real-time monitoring and recording of student progress. I think you will see this focus reflected in many of the presentations at this conference.

Although there is a growing body of research on the use of computers in the classroom in Japan, there is much less research focused specifically upon e-learning. The pedagogic value of e-learning often goes unrecognized but even when recognized, it is often discounted. Increasing numbers of language teachers, however, are recognizing the potential utility of e-learning, and for good reason. Language teachers know that the degree of use of the target language outside the classroom correlates closely with student progress.

Language teachers are quick to appreciate the great potential e-learning offers to increase opportunities for language practice beyond the classroom.

E-learning courses utilize virtually universal technological standards, making delivery possible on any operating system. E-learning's interactive reach extends far beyond the walls of the classroom and the campus, making it a natural for the enhancement of language teaching/learning. Learning can take place anywhere, anytime, extending the temporal limitations of the classroom as well. The technological learning curve is now negligible thanks to the ubiquity of computers. Communication among and between teachers and students is significantly enhanced. Content can also be easily updated at any time. Why, then, is e-learning so under-utilized in Japan despite all these advantages? Some of the biggest obstacles are institutional and cultural, and I believe these constitute our biggest challenges.

Research conducted by members of our organization can continue to contribute significantly to the field of e-learning in Japan. I look forward to attending the many insightful presentations scheduled for this conference, and joining in some lively discussions. I would like to express my sincere thanks to all the presenters, and especially to the organizers. We all tend to overlook the fact that conferences cannot be successful without the hard work and patient efforts of those behind the scenes. Special thanks go to Prof. Kinoshita for his skillful leadership and guidance of our chapter. Many thanks and kudos to all.

I would be remiss if I did not mention the incident which took place at OIU (Okinawa International University) last August (2004). A large section of our campus, including the Administration Building, was invaded and occupied by US marines. Those of you who enter via the main gate of the university will undoubtedly notice the blackened, scarred Administration Building just inside the gate. A panoramic view of the US marine base can be had from the roof of Building 5. During the conference, our student peace guides would be happy to escort you to both places. Please contact conference headquarters if you would like a guided tour.

Although this is just a one-day conference, we encourage participants to take advantage of the myriad recreational opportunities available here in Okinawa. Very few other aquariums in the world rival the Churaumi Aquarium. World-class diving and numerous other marine sports can be enjoyed year round at our dazzlingly beautiful beaches. There are a number of World Heritage sites located here, as well as hundreds of other sightseeing spots. Okinawa has a rich and distinctive culture and history, and we hope you can enjoy learning a bit about our heritage while you are here. There is far too much to see in one trip, so we warmly invite to return again, and again.

## 沖縄国際大学 CALL 教室について

伊 波 清 輝 (沖縄国際大学)

現在、コンピュータとネットワークの融合により、マルチメディアがあらゆる局面で大きな役割を果たしている。平成14年度から実施された新教育課程では、情報活用能力の育成が明記され、コンピュータや情報通信ネットワークが思考、表現、コミュニケーションの道具として中心的な存在になってきた。沖縄国際大学でも、マルチメディアを生かした情報処理教育、発信型外国語教育、対話型語学教育の環境を提供する、コンピュータ支援型の語学学習システムの構築を模索してきた。教員は、テキスト中心の教室授業、LL 教室での一方的なリスニングの授業等から、情報メディアを駆使した教授方法への転換を迫られている。

従来、本学の LL システムは第一教室 (64 ブース)、第二教室 (48 ブース)、第三教室 (48 ブース) の構成で、法学部、商経学部、総合文化学部の外国語共通科目、英

語 I・II、中国語 I・II、ドイツ語 I・II、フランス語 I・II、スペイン語 I・II、韓国語 I・II、留学生のための日本語科目に供されてきた。新しく (1 年前)、LL システムから CALL システムへの移行に際しても、その基本原則は継続された。CALL 教室は、従来の LL 教室の機能も残しつつ、学生と教師が自由にコミュニケーションできる、パソコンネットワーク機能も有している。映像や音声をスムーズに転送できるので、上記の外国語共通基礎科目に加え、講読が中心である英語 III・IV や文法、作文、発音指導等にも活用範囲が拡大している。また、情報基礎科目のみならず、発信型語学教育に必要なプレゼンテーション資料作成、ホームページ作成、グラフィック資料作成、動画資料作成のための科目設定も可能となっている。



## LET 九州・沖縄支部紀要第 5 号について

紀要編集委員長 石 井 和 仁

早いもので、LET 九州・沖縄支部紀要も創刊以来 5 年が経過し、5 冊目を発行するに至った。この紀要は、外国語教育メディア学会 (LET) 九州・沖縄支部会員のための研究発表および実践報告の場であり、LET 関連の国際・国内学会での口頭発表が紀要原稿執筆の前提条件となっている。また、2 年毎に募集・選定される支部研究プロジェクトの研究結果報告の場ともなっている。したがって、本紀要は、九州・沖縄支部における研究活動のエッセンスの集積であると同時に、研究の質の高さを示すバロメーターともなっている。

今回の支部紀要第 5 号は、研究論文 1 本、実践報告 3 本、九州・沖縄支部研究プロジェクト報告 1 本を掲載し

ている。どの投稿原稿もそれぞれ 3 人の査読者が査読し、査読規定に基づき 10 点法で採点を行っている。平均点が 6 点以上であれば採用が確定するが、6 点未満でも 4 点以上であれば、査読コメントに沿った修正を施すことで採用が認められている。査読には、九州・沖縄支部評議員がその任に当たっている。

本紀要は、論文・実践報告の他にも、九州・沖縄支部会員・役員名簿、各種規定等も掲載しているため、支部運営委員会において何かと重宝されるという一面も持っている。毎号少しずつ細かな改善を施しているため、第 5 号はこれまでに形式・内容ともに一番整った支部紀要なのではないかと思っている。

## 実践的コミュニケーション能力を高める指導と評価の研究

ーコミュニケーションが継続する手だての工夫を通してー

川 尻 徳 (福岡市立三宅中学校)

本研究は「話すこと」の指導と評価に重点を置いて行った。平成14年度は、生徒の「話すこと」に関して実態調査を行った。インタビューテストを行って、間違いを気にせず、内容中心に発話する傾向の生徒と正確さに固執し、言語形式中心に発話する傾向の生徒という2つのタイプの生徒が実際にいることが分かった。

平成15年度は、上記の傾向をもつ生徒が共にコミュニケーションを継続することのできる指導法と評価法を研究することとした。指導に当たっては、インプット活動、アウトプット活動、インタビューテスト、ビデオを活用したモニタリング活動を行った。評価に当たっては、独

自の評価規準と評価基準を作成した。この研究の成果の1つとして、「ビデオを視聴しながら、コミュニケーション・ストラテジーを必要とする場面でモニタリング活動を行わせることによって、生徒の情意フィルターを下げると、コミュニケーションの継続に効果があった」を上げることができる。

本研究に取り組むことにより研究の方法を身に付け、研究実践の意欲を高めることができました。2年間の支部研究プロジェクトにより研究をさせていただいたことに深く感謝いたします。

## ~~~~~ 平成16・17年度外国語教育メディア学会九州・沖縄支部研究プロジェクト 中間報告 ~~~~~

研究代表者：長 加奈子 (福岡女学院大学短期大学部)

研究分担者：大津 敦史・奥田 裕司 (福岡大学) 竹野 茂 (宮崎公立大学)

近年、コンピュータおよびインターネット環境の普及に伴い、e-Learning 教材を用いて、各学習者のレベルおよび進捗度合に応じた英語学習を行うことができるようになった。その一方で、同じ学習環境にありながら、積極的に e-Learning を利用する学習者と、全くと言っていいほど利用しない学習者の差がはっきり出てきている。そこで、e-Learning の成否に影響を与える要因を探るべく、外国語教育メディア学会九州・沖縄支部からの研究助成を得て、研究プロジェクト「e-Learning におけるドロップアウト対策ードロップアウトを引き起こす要因とその対策についてー」をスタートさせた。本研究プロジェクトは、2004年度・2005年度の二ヶ年に渡るもので、学習者の自発的な e-Learning の継続にどのような要因が影響を与えているかについて調査、研究することを目的とするものである。

プロジェクトの初年度である2004年度は、まず、プロジェクトに参加する学生を対象に基礎調査を行った。こ

のデータに関しては、現在、分析中である。また、学生は2004年10月より、それぞれ e-Learning による英語学習を開始した。本プロジェクトでは、学習教材として ETS の Criterion を使用している。これは、英語の Essay Writing を学習する為の教材で、即座にフィードバックが返ってくるという特徴がある。学生は2004年度後期と2005年度前期の約1年間にわたり、この教材を使用することができる。2004年度後期は、研究分担者が担当する授業において、授業外学習の一環として、Criterion を使用させた。学生に対しては、成績評価とは関係がないことを周知徹底させた。担当教員は、学生の Writing に対してコンピュータではカバーできない部分に関するコメントを与える等のフィードバックを行った。2005年度も学生は引き続き、Criterion を利用した学習を行う。今年度は、学生の Criterion 学習状況に対して、どのような要因が関係しているのか、詳細にデータを分析していく予定である。(文責：長 加奈子)

## FLEAT 5 へのお誘い

国際交流委員 染 谷 正 一 (大分県立芸術文化短期大学)

FLEAT (Foreign Language Education and Technology) は、LET の前身である LLA と NALLD (現在の IALLT the International Association for Language Learning Technology) の共催により、1981年に東京のホテルオークラで立ち上げた学会です。その後、今までに、4回開催されています。

第2回は名古屋の中部大学、第3回はカナダのビクト

リア大学、第4回は神戸の神戸ベイ・シェラトンホテルで行われました。第5回は、2005年8月5日から10日まで、米国ユタ州のブリガムヤング大学で行われます。

FLEAT 5 を利用して風光明媚な場所に出かけ、しばし“ユタ”っとした気分で英気を養ってみてはいかがでしょうか。

## 事務局からの報告・連絡

### 【新会員】2004年11月1日以降（50音順）

石川 隆 士（琉球大学）  
金城 守（沖縄国際大学）  
猿 渡 翌 加（長崎大学 大学院生）  
平 良 勝 明（琉球大学）  
Dawn Michele RUHL（長崎大学）  
原 田 裕 崇（熊本学園大学 大学院生）

### 【2005年度 LET 九州・沖縄支部研究大会】

期 日：2005年5月28日  
時 間：9：30～16：20（懇親会16：30～18：00）  
会 場：沖縄国際大学（沖縄県宜野湾市宜野湾）  
シンポジウム：学力低下時代における e-learning 教育の可能性

### 【2005年度 LET 全国研究大会】

第45回全国研究大会  
期 日：2005年7月29～31日  
会 場：東京国際大学 第1キャンパス（埼玉県川越市）  
シンポジウム：広がる外国語学習環境  
－メディアがもたらす学習支援の可能性

### 【会費納入のお願い】

2004年度までの年会費（団体・個人6,000円、学生3,000円）をまだ納入されていない会員は、できるだけ早めに振り込みくださいますようお願いいたします。

なお、住所・所属等に変更が生じた場合は、振込用紙の通信欄にその旨ご記入ください。

支部の円滑な運営にご協力ください。

### 【LET ホームページ】

〈LET 本部〉 <http://www.j-let.org/>  
〈LET 九州・沖縄支部〉  
<http://www.j-let.org/kyushu-okinawa/>

※2005年3月に LET 九州・沖縄支部「紀要」第5号を発行しました。ご入用の方には700円（実費）と郵送料210円でお分けします。支部事務局までお申し込みください。

## パナソニックSSマーケティング株式会社 九州社

**Panasonic**  
ideas for life



<http://www.e3.panasonic.co.jp>



上記アドレスのホームページ内に設けています。

CALL教室はもちろん、遠隔講義や講義記録、セキュリティ等々いろいろなシステムをプランニング～施工～メンテナンス迄一貫して行ないます。皆様のお役に立てるパートナーになれるよう全力を尽くします。お気軽にご相談ください。

<http://www.panasonic.co.jp/pss/pssm>

福岡支店 〒812-8642  
福岡市博多区榎田2丁目2番36号 STSビル  
TEL 092-415-2860  
佐賀支店 〒840-0027  
佐賀市本庄町大字本庄966-1  
TEL 0952-22-5347  
長崎支店 〒852-8014  
長崎市竹の久保町17番17号  
TEL 095-862-6111  
熊本支店 〒862-0935  
熊本市御領1丁目6番28号  
TEL 096-380-3811  
大分支店 〒870-0003  
大分市生石2丁目1番31号  
TEL 097-538-6000  
宮崎支店 〒880-0001  
宮崎市橘通西5丁目1番23号  
TEL 0985-24-1455  
鹿児島支店 〒890-0063  
鹿児島市鴨池1丁目52番16号  
TEL 099-258-1391